

大腸癌研究会プロジェクト研究

内視鏡摘除後大腸SM癌の転移・再発に関する多施設共同研究（後向きアンケート調査）

第1回委員会

2013.1.17

研究目的

大腸癌治療ガイドラインの妥当性

大腸癌治療ガイドライン2005年度版、及び大腸癌取り扱い規約における大腸SM癌内視鏡摘除後の追加腸切除考慮基準について、これまでの中期経過の解析からのその妥当性については十分な評価を得ている。

大腸癌治療ガイドラインの問題点

大腸SM癌内視鏡摘除後の追加腸切除が考慮される場合、依然としてoversurgeryとなっているという問題点も指摘されている。

その理由として、仮に追加腸切除を行わずに経過をみて転移や再発を生じた際の追加腸切除などのsalvage治療により、根治、または予後の改善が可能か、というエビデンスが得られていないからである。そのため再発の危険性が少しでもある場合、積極的に追加腸切除を行わざるを得ないという現状がみられている。

大腸SM癌治療後経過の現状

これまで内視鏡技術の進歩やSM癌の集積によるその病態解明が進み、多くの大腸SM癌が内視鏡的に摘除されるようになり、患者の全身の合併症や希望などにより追加手術を施行せず経過観察にまわる症例が増加しつつある。その経過観察中に転移や再発する症例も散見される。また、外科的切除を行った大腸SM癌においても、希ではあるが転移再発をきたすものがある。

本研究の目的・期待される結果 1

内視鏡摘除後経過観察となった大腸SM癌が再発した症例の予後（追加治療の効果）については単独施設での症例は非常に少ないため、エビデンスはほとんどなく、本プロジェクト研究でそのデータの構築を目指す。また、内視鏡摘除単独あるいは内視鏡摘除＋追加手術後に再発した病変の臨床病理学的特徴と再発様式・臨床経過を解析するとともに、内視鏡摘除後経過観察中に転移・再発した症例に対するSalvage治療の有効性が明らかとなる。

本研究の目的・期待される結果 2

後向きアンケート調査ではあるが、内視鏡摘除後経過観察中に転移・再発した症例のSalvage治療の成績や生命予後が客観的データとして明らかになり、その情報をガイドラインに盛り込めるとともに、実臨床で患者に説明することが可能となる。その結果、大腸SM癌の治療法選択における正しい患者の理解、大腸SM癌内視鏡摘除後の患者の予後改善など多大なる貢献が得られることが期待される。

プロジェクト委員-1

委員長

市立旭川病院消化器病センター

齊藤裕輔

臨床系委員

広島大学病院内視鏡診療科(副委員長)

田中信治

広島大学病院内視鏡診療科(事務局)

岡 志郎

国立がん研究センター中央病院内視鏡部

齊藤 豊

国立がん研究センター東病院内視鏡部

池松弘朗

がん研有明病院内視鏡診療部

五十嵐正広

昭和大学横浜市北部病院消化器センター

和田祥城／工藤進英

北里大学東病院消化器内科

小林清典

東京女子医大消化器病センター

井上雄志

慶応大学腫瘍センター

浦岡俊夫

大阪府立成人病センター消化管内科

飯石浩康

秋田赤十字病院胃腸センター

山野泰穂

久留米大学第二内科

鶴田 修

広島市立安佐市民病院内視鏡内科

永田信二

プロジェクト委員-2

臨床系委員

松山赤十字病院胃腸センター

静岡県立がんセンター病院内視鏡科

佐野病院消化器センター

近畿大学消化器内科

京都大学消化器内科

東京慈恵会医科大学内視鏡科

東京大学腫瘍外科

防衛医科大学校外科

東京医科歯科大学腫瘍外科

京都府立医科大学分子標的癌予防医学

蔵原晃一

山口 裕一郎

佐野 寧

檜田博史

堀松高博

斉藤彰一

渡辺聡明

上野秀樹

石黒めぐみ

石川秀樹

病理系委員

新潟大学分子・診断病理

杏林大学病理学

独協医科大学病理学

味岡洋一

大倉康男

藤盛孝博

事務局

広島大学病院内視鏡診療科 岡 志郎

〒734-8551 住所 広島市南区霞1-2-3

電話:082-257-5193 FAX:082-257-5193

メールアドレス:oka4683@hiroshima-u.ac.jp

研究期間

2013.1-2015.1(2年間)

今後の予定

- 第1回(2013.1): アンケート内容の概要決定: 今後mailで調整
(2013.3): アンケート内容の最終決定
(2013.4): アンケート調査開始: 2014.3までの1年間
- 第2回(2013.7): 中間報告(第1回) & 意見調整
- 第3回(2014.1): 中間報告(第2回): 問題症例の検討
- 第4回(2014.7): 最終結果の概要報告と執筆担当等の調整
- 第5回(2015.1): 最終報告、プロジェクト終了

研究・調査方法

1991年から2010年の間に大腸SM癌に対して内視鏡摘除単独あるいは内視鏡摘除＋追加手術後に再発した病変(6ヶ月以降の異時性再発)において大腸癌研究会施設会員全施設に以下の項目につき後向きアンケート調査を行い、症例を収集し解析を行う

1. 病変の臨床的特徴
2. 病変の病理学的特徴
3. 再発様式
4. 追加治療内容
5. 臨床経過
6. 生命予後

アンケート内容の意見調整